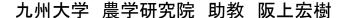
次世代型木質エコマテリアル創製に向けた研究





研究の概要

木材は生物材料がゆえ、「<mark>腐る・燃える・変形(干割れ)する</mark>」といった特徴があり利用が難しい。本研究では、木材本来の長所を維持しつつ、これらの課題を全てクリアし、低エネルギーコストで生産可能な木質エコマテリアルの創製を目指し、大阪大学との共同研究にてイオン液体と木材のハイブリッド木質材料を開発した。性能評価の結果、処理木材は腐朽抑制効果が高いことが確認できた。

最近の研究成果

○研究背景

木材は大気中のCO₂を炭素として長期間固定できる持続可能な材料として近年利用が重要視されている。しかし、生物材料がゆえ、腐る・燃える・変形(干割れ)するといった特徴があるため、防腐剤や難燃剤等で薬剤処理する必要があるが、全ての条件を満たす材料は未だ開発されていない。 本研究では、木材本来の長所を維持しつつ、これらの課題を全てクリアし、低エネルギーコストで生産可能な古くて新しい次世代型木質エコマテリアルの開発を目指している。本フォーラムではこららの研究の一つであり、大阪大学との共同研究にて開発したイオン液体と木材のハイブリッド木質材料について、現段階で明らかとなった性能について報告する。



≪問合せ先≫

九州大学 農学研究院 環境農学部門 助教 阪上 宏樹

Phone: 092-642-2986 Email: h-sakagami@agr. kyushu-u. ac. jp